

前期基本計画

[3] 産業・経済

～ 人々が集い活力ある豊かな村 ～

1. 農業の振興
2. 水産業の振興
3. 商工・観光業の振興

1. 農業の振興

現状と課題

- 海岸線に沿った長手の村域の山間に農地が分布し、その面積は村面積の約1割余です。総世帯数に占める農家数も約1割余で、そのうち7割が販売農家、3割が自給農家です。販売農家の経営耕地規模は100a未満が半数を占め小規模なことから、農地の集積をはかる必要があります。
- 農地の利用を品目別にみるとサトウキビ、花卉類、野菜類、果樹類、観葉植物類、畜産経営の順となっています。農業生産額では、花卉類が最も大きく、次いでブロイラー、サトウキビ、観葉植物類、果樹類、野菜類の順です。花卉類は小菊が主力で、次いで切葉のドラセナです。果樹類はパッションフルーツ、マンゴー、アテモヤの順です。
- なかでも小菊、パッションフルーツ、切葉（ドラセナ）が拠点産地に認定され、今後、責任ある産地として「定時・定量・定品質」の農産物を安定的に出荷することが望まれています。
- 農業従事者は高齢化していることから、後継者の育成とともに品質の高い農産物を生産することのできる担い手の育成が重要となっています。
- 農業生産基盤の整備状況は、谷茶以南のかんがい施設の整備率が低いことを除くと、ほ場整備、水源整備とも県内では高い整備率となっています。花卉、果樹の主力品目の生産向上とあわせて、かんがい施設や近代化施設の整備が必要とされます。
- 農業従事者の高齢化に対応した農業活性化をはかる必要があります。「おんなの駅 なかゆくい市場」の開設により、地域農産物の販売先が生まれ、野菜等の生産が活性化しています。また本村に立地するリゾートホテルへの直売が行われています。これらは本村の立地特性を活かした販路開発であり、高齢者や女性が参加する多品目生産と地産地消による農業の活性化が期待されます。
- 「ふれあい体験学習センター」において、主に修学旅行生を対象に体験農業や、地元の料理実習等により、農業の学習と交流事業が進められています。また「婦人の家」においては地元素材を活かした料理や加工品開発が試みられています。地域の食文化と農業の理解、生産現場で見る食材の健全性等、観光および都市との交流、生産者と消費者との交流による多面的な農業の展開が望まれます。
- 農村生活の都市化にともない、下水処理や公園整備等、生活環境の向上が求められています。こうした農業、農村生活の変化に対応した農村環境の整備・保全が課題です。



切葉（ドラセナ）



パッションフルーツ

基本方針

小菊を主力とする花卉類、パッションフルーツ等果樹類の実績を踏まえて、近代化施設の整備や生産技術の向上、高齢化に対処した担い手の育成とともに、主力品目の高品質生産と産地形成、「恩納ブランド」の確立をめざした農業振興をはかります。

農業従事者が高齢化していることから、「おんなの駅 なかゆくい市場」や一部ホテルへの直売等、高齢者や女性が参加できる地産地消による農業の活性化をはかるとともに、観光リゾート地という立地特性を活かした体験農業の提供や、周遊が誘われる農村環境の整備等、多面的な農業振興をめざします。

施策の展開

1) 産地形成と生産振興

○花卉、観葉植物の本土における評価を踏まえ、更に、近代化施設導入等による農業経営基盤の整備を促進し、生産供給体制の強化により恩納ブランドの確立と計画的・安定的に出荷できる産地の形成を推進します。特にパッションフルーツ、アテモヤ等を今後の重点品目とし、病虫害対策と技術向上をはかりながら、複合経営の推進と若手農業者の育成をめざします。

- ・恩納ブランドの確立と生産体制の強化
- ・販売と加工対策の強化
- ・熱帯果樹等の農産加工品開発の推進
- ・農業経営基盤の整備（かんがい排水施設、近代化施設の整備、遊休農地の活用管理）
- ・担い手の育成（認定農家、若手農業者等）

2) 活力と魅力ある農業展開

○食の安全、健康志向の高まりとあわせて地元農産物が見直されており、安心・安全な野菜等の生産奨励とともにエコ農家の育成をはかります。また観光リゾート地であるという地域特性を活かし、「おんなの駅 なかゆくい市場」や「ホテル」の活用を奨励し地産地消を推進します。また体験農業、料理学習等、観光と農業、都市と農村との交流、さらに食育活動や農業学習等、子ども達や女性、高齢者が参加する農業を推進します。

- ・農産物直売の推進（「おんなの駅 なかゆくい市場」「ホテル」等の活用奨励）
- ・観光と農業、都市と農村交流の推進（体験農業等）
- ・子ども達や女性、高齢者が参加する農業活性化（食育活動、農業学習）

3) 美しい農村環境の整備・保全

○山間部や集落近傍での開発事業、農業施設・機械等の近代化、農村生活の都市化による農村環境の変化に対処して、赤土流出防止をはじめ家畜排泄物の堆肥化による循環型農業の構築等、本村の山、川、農地、集落、海岸が一体となった美しい農村環境の整備・保全に取り組めます。

- ・赤土流出防止（赤土流出防止啓発、沈砂池設置、法面保護、農地の勾配修正）
- ・循環型農業の推進（家畜排泄物の堆肥化、農業施設の維持管理、農業廃棄物の処理）
- ・快適な住環境の整備（農村公園整備、下水処理事業の推進）

2. 水産業の振興

現状と課題

- 本村には長大な海岸線と広大なイノー（礁池）があります。沿岸域は共同漁業権が設定されており、その中に藻類養殖場などの特定区画漁業権があります。
- 本村の漁業はモズク等の藻類養殖漁業を主力として発展してきました。藻類養殖は本モズク、糸モズク、恩納モズク、アーサ、海ぶどうの5種類が行われており、本村の基幹漁業となっています。資源管理型漁業は貝類を中心として漁獲制限と種苗放流を組み合わせられており、安定した水揚げを維持しています。観光漁業はダイビング案内業と体験学習事業が伸びています。本村の漁業はサンゴ礁海域を利用した沿岸漁業が盛んであり、この漁場特性を活かした養殖漁業、資源管理型漁業、漁船漁業、観光漁業の持続的な成長を進めていくことが重要です。
- 屋嘉田潟原は沖縄を代表するサンゴ礁干潟で漁場としても高度に利用されています。「漁業振興保全区域」に指定され、赤土堆積漁場機能回復事業の導入により赤土が除去され、アーサ養殖場として再生しています。
- 本村では村条例により厳しい排水基準が設定されています。また、大規模開発に関しては「恩納村赤土流出防止協議会」の設置と「漁業被害防止協定書」の締結により、海域の環境保全に取り組んでいます。
- サンゴ礁生態系の保全については、オニヒトデの大発生を未然に防ぐため、産卵期前の集中駆除を行っています。また、サンゴ白化現象からのサンゴ回復を目指して、サンゴ養殖と植え付けを、「サンゴを育む活動」として村、漁協、商工会、関係事業者、消費者と連携して行っています。生態系の回復に向けては、追跡調査を含めた事業の継続が必要です。
- 「海ぶどう」と「モズク」は、県より拠点産地認定を受けています。また、糸モズクの新品種である恩納モズクは「恩納1号」として品種登録しています。それらを「美ら海育ち」として商標登録し恩納ブランドの確立に努めています。
- 水産加工は衛生管理の徹底により安心・安全な高品質商品の提供、産地による流通拠点づくり、漁業者、加工業者、販売業者、消費者との連携を進めています。
- 漁場の整備事業として、屋嘉田地先において並型漁礁、大規模ウニ増殖場、タカセガイ中間育成礁を整備しています。漁港は前兼久、恩納、真栄田、瀬良垣漁港の4漁港があり、陸上機能施設として前兼久漁港には加工流通施設、恩納と真栄田漁港には生産関連施設が整備され、瀬良垣漁港の機能施設の整備が待たれています。



瀬良垣漁港

基本方針

本村漁業はサンゴ礁海域を主漁場としており、モズク等の海藻養殖を主力として発展し、第一次産業の一翼を担っています。「モズク」「海ぶどう」のブランド化を加えた養殖漁業の発展に力を入れるとともに、資源管理型漁業の安定継続をめざします。

また漁協による販売、加工事業の充実をはじめ、漁業者、加工業者、消費者と協力した新しい物産開発、商工観光と結んだ体験漁業等、他分野と複合した取組みを強化します。さらに、サンゴ養殖事業等による生態系の保全、海洋レジャー活動との共存等、海域環境の保全と一体となった「里海づくり」に取組みます。

施策の展開

1) 里海づくり

- 本村漁業はサンゴ礁海域を主漁場としており、この海域は多様な環境と生態系で成り立っています。人の手が加わることにより漁獲量や環境・生態系が維持増進される海を「里海」と呼びます。再生産可能な海の機能を最大限に発揮し、海を活かしたむらづくりに取組みます。
- 養殖漁業、資源管理型漁業、漁船漁業、観光漁業を4本柱と位置づけ、漁場の高度利用と複合経営による効率のよい漁業生産を実践するとともに、環境・生態系にやさしい漁業を推進します。
- 漁業は海の恵みを受けて成り立つ産業であることから、海域汚染の防止、オニヒトデ駆除、サンゴ再生等、漁場環境や生態系の保全をとおして「里海づくり」に取組みます。

2) 誇りの持てる商品づくり

- 高品質な魚介類を生産し、鮮度保持に力点を置いた加工流通体制を充実し、安心・安全・健康に資する高品質商品を提供します。
- 生産物の特性を活かした産地にしかできない水産加工品を製造し、消費者のニーズにあった製品の販売を行います。

3) 事業者・消費者等との連携

- 消費者・加工業者と連携し地産地消を推進するとともに、産直販売の充実をはかります。また、消費者との交流をとおして生産物および産地への理解を深めます。
- 沖縄科学技術大学院大学や沖縄県水産海洋研究センター等の研究機関、沖縄県水産業改良普及センターと連携し、里海の管理手法の向上や新商品の開発を行います。
- 商工会や観光関連事業所と連携し、体験漁業や体験学習事業の充実をはかります。
- 学校教育と連携し、海や漁業に対する理解を深めます。

4) 効率のよい漁業生産

- 漁港は漁業の中心となる施設です。本村には4つの漁港と1つの船溜場があり、それぞれが機能的に補完しあい、各地区の特性を活かした漁港づくりを進めます。

3. 商工・観光業の振興

現状と課題

－商工業－

- 本村の商業店舗は現国道 58 号沿いに立地し、中心地と呼べる商業施設の集積は少なく、地元購買需要に対応する小規模店舗がほとんどです。人口規模および商業圏域から買回り品を含む商業拠点地の形成には難しい面があり、最寄り品等の生活需要に対応する商業サービスの充実と地元消費の推進をはかる必要があります。
- 近年、通過型購買需要に応じて「おんなの駅 なかゆくい市場」は活況を呈しています。また、リゾートホテル近傍に飲食店や工芸・土産物店、リゾート服飾店、海洋レクリエーション・サービス店、コンビニエンス・ストア等、観光客向けの商業・サービス施設の立地が進み、前兼久においては一定の集積をみるに至っています。これら事業所と大型リゾートホテルが連携し、催し物や店舗の案内、レクリエーション・サービスの情報提供により商工業の振興をはかることが課題です。
- 現国道 58 号には集落、漁港をはじめ大型リゾートホテルが立地し地域の骨格となっていますが、国道 58 号バイパスの開通により観光交通の迂回等交通に変化が生じています。現国道 58 号が観光交通のメインルートとなるよう、沿道の魅力を高めることが重要です。
- 大型リゾートホテル近傍や沖縄科学技術大学院大学周辺においては、来村者の飲食・購買需要が期待されます。商業・サービス施設を誘導し、地域全体のポテンシャルを高めていく必要があります。

－観光・交流－

- 本村の風光明媚な海岸線や豊かな自然環境等に恵まれた地域条件を背景に大型ホテルの立地が進み、その集積は県内でもっとも大きく、観光リゾート地としての地位を確立しています。最大の観光資源である豊かな自然環境を保全し、「緑の回廊づくり」等、本村に滞在、周遊する観光振興をはかることが課題です。
- 修学旅行生を主とした農業体験、韓国プロ野球キャンプ時の野球教室等、地域交流が進められています。農林水産業地域という本村の地域条件や本村にしかない歴史・文化資源を活かした滞在交流の推進が望まれます。
- 「グリーンツーリズム」等、沖縄の自然に触れ合う観光振興が進められています。高齢社会における「ウェルネス（保養）観光」等、時代の変化にともなう新たな観光需要に対応する観光サービスの充実が課題です。
- 観光の国際化、沖縄科学技術大学院大学の開学等により、海外からの来村者が増えるものと予想されることから、役場等での英会話案内をはじめガイドブックや案内表示の多言語化が更に必要とされます。

基本方針

国内有数の観光リゾート地としての成長とともに商工業も発展しています。このような本村の地域特性を活かし、商工業と観光が相乗した一体的な振興をはかります。

また「緑の回廊づくり」、歴史・文化、地場産業を活かした地域交流等、恩納村ゆえに可能となる地域づくり、観光サービスの提供を基礎に、恩納村観光振興ビジョンである「風と光が流れ時を忘れる村恩納村」をめざし、観光むらづくりを推進します。

施策の展開

1) 商工業の振興

○地元の生活需要に対応する商工業サービスの充実をはじめ、催し物や店舗の案内等大型ホテルとの連携や総合的ネット情報の発信による商工業の振興をはかります。さらに沖縄科学技術大学院大学、「おんなの駅 なかゆくい市場」周辺での観光・交流・商業拠点づくりを進めます。

- ・地元企業の育成（地元消費の推進、商工会との連携による小規模事業者の支援）
- ・商工業と観光関連業との連携（イベント・店舗案内、サービス情報の提供、特産品・観光商品の開発・販売促進）
- ・情報化の推進（総合的ネット情報の発信）
- ・観光・交流・商業拠点づくり（沖縄科学技術大学院大学周辺整備、「おんなの駅 なかゆくい市場・万座毛」周辺整備）

2) 観光・交流の振興

○本村の自然環境の保全、景観形成を主軸とした「緑の回廊づくり」をはじめ、本村の人材、歴史・文化、地場産業の活用と連携、高齢社会に対応するサービス機能の拡充等により、恩納村ならではの観光・交流の振興をはかります。

- ・緑の回廊づくり（海岸・森林の環境整備・保全、景観形成）
- ・スポーツと健康の融合（各種スポーツキャンプの誘致・交流）
- ・高齢社会ニーズへの対応（健康保養サービス機能の拡充、バリアフリーの推進）
- ・賑わいの創出（伝統芸能等各種イベントの開催、レクリエーション施設等の整備）
- ・利便性の向上（交通アクセスの充実、インフォメーションの向上）
- ・歴史資源・地域文化の活用（恩納ナビ^{うんな}・吉屋チル^{うんな}のイベント、琉歌大賞、国頭方西海道等歴史散策ガイド）
- ・体験および交流の促進（体験型観光の開発、体験学習・交流事業の振興、観光・交流人材の育成）
- ・地場産業との連携（地場食材の供給、体験農業・漁業、特産品加工開発、雇用促進）
- ・観光の国際化への対応（国外誘客促進、多言語案内、語学セミナーの開催等受入れ体制の整備）

3) 現国道 58 号（恩納海岸リゾート）の沿道街づくり

○現国道 58 号の海を望む良好な景観を活かし、沿道景観の整備により人々が誘われるような魅力ある沿道街づくりを進めます。

- ・沿道街づくり体制の支援（道路整備と沿道街づくりの連携、商店・観光関連事業所・ホテル・NPO・地域団体等による組織化）



特産品の一例



春や春 おんな WEEK で楽しまナイト！



美ら島オキナワセンチュリーラン



おんなの駅 なかゆくい市場



うんなまつり